【谷口賞】　榎田充哉　氏（国土防災技術株式会社）

●谷口賞

地すべり技術の発展や学会および関連分野における事業等において多年にわたり優れた成果を挙げた個人または団体

●受賞理由

榎田充哉氏は日本の斜面対策工設計技術に内在する力学的・理論的課題に着目し，それらが十分な検証や議論を経ないまま，長年にわたり慣行として踏襲されてきた実態に強い問題意識を持って研究を継続してこられました。その成果は，日本地すべり学会誌において，論説，総説，技術報告，フォーラム，シリーズなど多様な原稿区分にわたる11編として公表されています。

榎田氏の研究の特徴は，新規工法や解析手法の提示に主眼を置くものではなく，日本の斜面対策工設計で用いられてきた安定解析式や各種設計手法について，その成立経緯，力学的妥当性，学術的根拠を丹念に整理・検証し，問題点を体系的に明らかにしている点にあります。とりわけ，すべり面深度から粘着力を設定する日本独自の手法や，抑止力算定方法，集水井工・のり枠工等の設計式については，実務で広く用いられているにもかかわらず，十分な学術的検証が行われてこなかった課題を具体的に示しています。また，これらの設計手法が海外事業にも適用され，一部の国では地すべり対策のみならず道路の斜面崩壊対策の安定解析手法として定着・マニュアル化されている実態を踏まえ，日本の斜面対策技術が国際的に与えている影響についても批判的かつ建設的に論じています。

これは，国内技術の検証にとどまらず，地すべり技術の国際的な健全性にまで視野を広げた重要な貢献と評価できます。文献群の中核を成す総説(榎田，2025b)では，斜面対策工設計の実務で利用されている各種設計式の問題点を力学的に整理するとともに，日本の学術論文等に見られる数式上の課題を類型化して示しています。さらに，他の土木分野における性能設計に関する学術研究や，アジアを含む諸外国の斜面防災分野の文献と比較することで，日本の斜面防災分野における性能設計の取り組みが学術的にも遅れている実態を明確に示しています。加えて，欧米を中心とした複数の設計ソフトに実装されている性能設計関連の機能を整理し，日本の設計ソフトとの相違点を具体的に解説した上で，日本の斜面対策分野における性能設計に関する応用研究の今後の方向

性についても考察しています。これらは，今後の研究・技術開発の基盤を提示する点で，技術的価値の高い成果と言えます。

さらに重要な点として，榎田氏は2010年以降15年以上にわたり，アンカー工，鉄筋挿入工（地山補強土工），のり枠工，鋼製・RC製集水井工など，斜面対策事業の中核を成す複数の工種を対象に，一貫して設計思想と技術体系の検証・整理を行ってきています。これらの成果は，設計手法の統一や技術基準の見直し，実務者間の共通理解の形成に資するものであり，地すべり技術の発展に対する多年にわたる貢献として高く評価されます。

これらの研究が多年にわたり地すべり技術の体系化と高度化に寄与してきた点は，日本の斜面対策工設計技術の将来的発展に極めて大きな影響を与えると考えられることから，谷口賞に相応しいと評価しました。

●略歴

1983年3月　佐賀大学理工学部物理学科卒業
1983年4月　国土防災技術株式会社入社
1994年3月　佐賀大学工学系研究科博士後期課程修了
2013年12月　国土防災技術株式会社　取締役技術本部長
2019年12月から現在　同社　常任顧問
2016年6月～2024年6月　日本地すべり学会副会長